

# 児童室だより

春日井市図書館  
2015. 7月号

図書館に設置されている各コーナーからいろいろな本の紹介をしています。  
今回のテーマは「雨のおはなし」です。



## あめふりういす

平田 昌広/文  
野村 たかあき/絵・原案  
講談社 E/コウ/14-27

(小低)

「ねこが顔をあらうとあめがふる」そんな言い伝えがありますが、なにをするのもめんどくさがりやのねこきち、かおをあらうのもめんどくさがるぐうたらねこ。

そのせいで、この村では長い間あめがふっていません。

そんなねこきちが、自分の顔を洗ってあめをふらせるというおかしい商売をはじめます。ねこきちの商売うまくいくのでしょうか・・・

ことわざや言い伝えが楽しめるぐうたらねこのゆかいな落語絵本です。



## 雨をよぶ龍

秋山 とも子/文・絵  
童心社 E/トウ/09-23X24

(小低)

ちいちゃんと弟のかんちゃんたちは、龍蛇を作るために神社にやってきました。

雨ごいのための龍蛇は長さ36メートル、重さ3000キロ！  
いったいどうやって作るのでしょうか？

埼玉県鶴ヶ島市脚折で4年にいちどおこなわれる、雨ごいが描かれた絵本です。雨をよぶ大迫力の行事を楽しんでください。



## 雨ふる本屋

日向 理恵子/作  
吉田 尚令/絵  
童心社 913/トウ/09

(小高)

雨やどりのために入った図書館で、ルウ子はカタツムリにみちびかれ、<雨ふる本屋>に迷いこみます。

そこは、ふしぎな古本屋。人間にわすれられたお話を集め、雨をつかって本にしあげます。でも、最近この店の本たちは、おもしろくなってきているというのです。その理由をさぐってほしいと店主のドードー鳥にたのまれ、ルウ子は冒険に出かけることに・・・



## 雲ごよみ

高橋 健司/写真・文  
山川出版社 45/ク/12

(小高)

雨はどこから降ってくるでしょう？

そう、雲からです。

この本はそんな雨を降らせる雲について書かれた本です。もちろん雲だけではなく、雨が降るしくみや、雨のときの空、雨が降りだすまでの雲の順番など、雨についてさまざまなことを知ることができます。たくさんの写真とわかりやすい解説の子どもから大人まで楽しめる本です。

## 図書館実習生おすすめの本

## ボランティアさんのおススメ本



## マララとイクバル

一パキスタンのゆうかな子どもたち

ジャネット・ウィンター/さく  
道傳 愛子/やく  
岩崎書店 E/イワ/15-29

ノーベル平和賞を17さいでうけたマララは、女の子が教育を受ける権利を、勇気を持って訴えました。そして銃で撃たれましたが、回復することができ、その後もひるむことなく声をあげています。

その何年も前に、12ドルの借金のために、じゅうたん工場で働かされた時イクバルは4さいでした。そして自由のために立ち上がり、銃で撃たれ命を落としたのは12さいの時でした。この絵本は、表と裏からマララとイクバルのそれぞれの物語が語られています。

二人のことを知りたくなったら、詳しく書かれたマララの本や『イクバルの闘いー世界ー勇気ある少年』(鈴木出版) フランセスコ・ダダモ・作 荒瀬ゆみこ・訳を手にとってほしいと思います。この絵本が、勇気を持つきっかけになることを願って。

(金の鍵)



## ひさの星

斎藤 隆介/作  
岩崎 ちひろ/絵  
岩崎書店 E/イワ/Z29

むかし、秋田のきたのはずれにひさという女の子がいました。ひさは何もしゃべらない無口な女の子でした。ひさは、大きな黒い犬から自分を犠牲にして、赤ちゃんを守る、そういう女の子でした。

ある大雨の降る夏、3歳になる政吉が川のふちでワァワァ泣いていました。政吉の親がどうしたのかと聞くと、「ひさが、ひさが！」と言うばかりです。政吉の親はカンカンに怒り、ひさの家に怒鳴り込みにいきました。

しかし、ひさは家にはいませんでした。それから、ひぐれになってもよるになってもひさは帰ってこず・・・

あとがきにも書いてありますが、この「星の本」が、日本中の少年少女の手にとられ、胸に輝くことをねがってやみません。

(愛知学泉短期大学実習生)

## 春日井市図書館・児童室のご案内

開館時間：火曜日～日曜日 午前9時～午後8時  
休館日：月曜日 (休日の場合はその直後の休日でない日)  
電話 (0568) 85-6800